

ノヤマ通信

vol.40 (2025.師走)



森のようちえんヒュッテ

【11月の活動記録：6日桂川渓谷、13日明石寺、20日愛宕山公園、27日宇和運動公園】

●活動を見つめるコラム

「身近な場所に暮らすヒト以外の存在に気づく」

森のようちえんで、みんなでお弁当を食べていた時のことです。すぐ近くの木で、小さなキツツキ（コゲラ）が巣穴を掘っていました。しばらく観察していると、きれいな丸い穴が開き、だんだん体が穴の中まで入るほど、穴が深くなっているようでした。大学時代、住宅地の庭で初めてこの鳥を見かけたとき、



「自分たちの生活のすぐそばに、こんなにおもしろい生きものがいるんだ」と、すっかりハートを打ち抜かれました。それ以来、野鳥を見るのが楽しくなったように思います。



気づいていないだけで、私たちの日常の生活空間には、案外たくさんの野生の生きものが暮らしています。今年は、熊と人との間で、痛ましい出来事も多く起こっていますが、野生動物と人間との距離の取り方が、改めて問われているのかもしれない 😞。



ヒト以外の存在と、どんな関係性を結んでいくのか。すぐに答えが出る問いではありませんが、まずは「そばに生きている存在に気づき、その生活の様子を知ること」—その意識から自然との共生は始まるのではないのでしょうか。忙しい日々の生活からちょっと離れて、そうしたまなざしを思い出す、森のようちえんはそんな場でありたいと思います。（ゆ）



▲11/27森のようちえん：落ち葉の型抜き（宇和運動公園）

👤👤 山の基地

【11月の活動記録：11/5、7、10、18、30…日常管理、11/3…開放日、11/24…イベント開催】

●11/24、ヨガ講師のあやみさんと、体に優しいごはんを作り続けられているほしのねさんと一緒にイベントを開催しました。（あやみさんは、ヒュッテにも参加してくださっていて、ほしのねさんは西予市オルタナティブスクールで、給食も作られています）
大人がゆったりと過ごしている中で、子どもたちも遊びながら楽しんでいる様子を見ることができて、私たちにとっても、とても豊かな時間でした。



●林ゾーンに作っていたツリーデッキ。デッキに上がるための橋が壊れ始めていたので、そろそろ交換の時期かなということで、いったんデッキを解体しました。森のようちえんに来てくれているファミリーのご協力もあって、無事に解体できました。



✿✿ その他の活動

●石積み甲子園を観戦（11/2）

農地のまわりの石積みを修復する技術を高校生たちが競う

「石積み甲子園」の観戦に行ってきました。石積み甲子園は、以前『だいちのめ』の取材でお世話になった真田純子先生が代表理事をされている（一社）石積み学校が主催する大会です。

初めての観戦でしたが、石積みが積まれていく様子をみなさんいろんな場所から見守り、来た人同士でお話しされたり、その周りで子どもたちが遊んでいる様子もあったりして、とても温かい空間でした。

石積み体験コーナーでは、石積み修繕士として明浜で活動されている亀井さんが、石の積み方をレクチャーしてくださり、子どもたちは楽しみながら石を積んでいました



●社会教育士の研修会に参加（11/4）

島根大学の社会教育士養成コースの修了生向けのフォローアップ研修で、森のようちえんヒュッテの活動を発表しました。私たち以外にも、小・中・高校の現場で働くみなさんから事例発表があり、地域と連携した教育に取り組むうえでの課題や可能性について対話をしました。

●長野に勉強に行ってきました（11/17～19）

林業従事者、デザイナー、建築家など異業種の人々が森の価値を再発見し、新たな森づくりや地域とのつながりを創出する学びの場『フォレストカレッジ』に参加してきました

ここ数年、身近な山でおこる開発事業とそれに対する地域の方々の受け止め方を目の当たりにし、「もっと地域の人に山や森への関心を持ってもらいたい、そのためのヒントをつかみたい」との思いで受講しましたが、結果的に「自分自身が森とどう関わっていくか」を見つめなおす貴重な機会になりました。



👂 よもやま話



●片づけをしてほしい私にとっては悪いと感じた出来事を、三女氏は、失敗と解釈していました。失敗ってなんなんでしょう。物は言いようのような、なんだか言いくるめられているような気もしながら、ずっと考えています。このやりとり、会社とかでも通じるんかなあとか・・・（笑）（ち）



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

noyama.company@gmail.com